

がん医療フォーラム仙台 2015 がん患者と家族の療養を考える

第1部 地域で療養するがん患者さんのご家族を支える情報とは

がん患者さんご家族のための 在宅療養を支える情報づくり

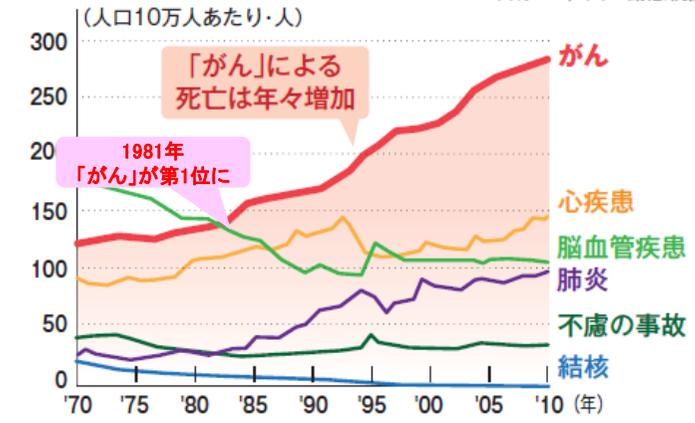


帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科
渡邊 清高

2015年11月8日
仙台国際センター

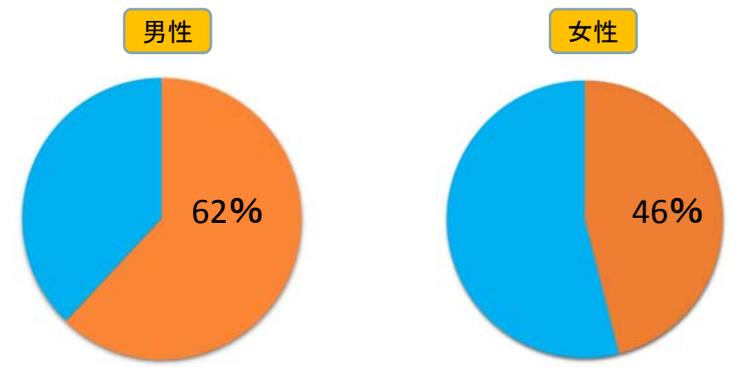
がんになる人はどのくらいいるの？

主な死因別にみた死亡率の年次推移 厚生労働省／平成22年 人口動態統計



年間**36万人**の方ががんで亡くなり、
1年間で**85万人**の方が新たにがんと診断されています。

日本人の2人に1人ががんになる

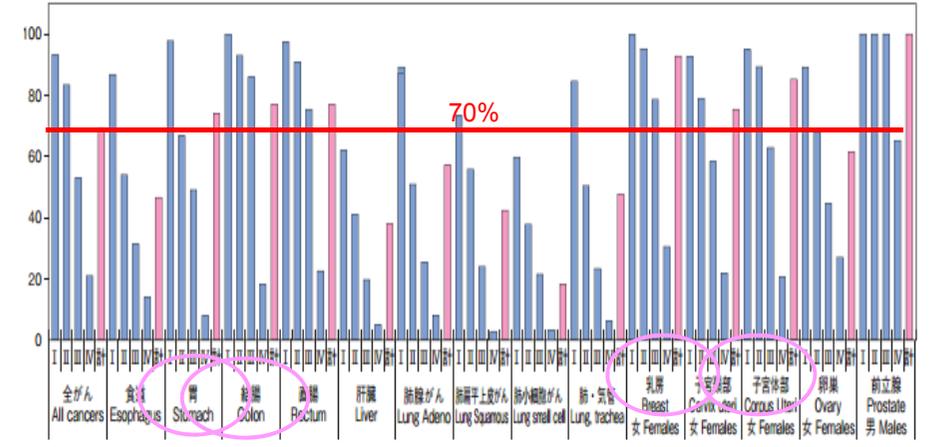


生涯でがんに罹患する確率 (2011年)

国立がん研究センター
がん対策情報センターによる推計値

医療の進歩→患者と家族を支える社会へ

がんの5年生存率(2005-2006 診断治療症例)
全国がん(成人病)センター協議会(全がん協)



胃がん・大腸がん・乳がんは5年生存率が**70%**をこえている

がんの統計2014
2015年11月8日

患者さんの支え: 情報

がん情報サービス

(国立がん研究センター
がん対策情報センター)

<http://ganjoho.jp/>

がん情報 サービス ganjoho.jp



手にとれる手引き

手帳、記録

地域の情報

心構え
療養のヒント
生活支援
用語集

わかったこと
わからないこと
聞きたいこと

「みやぎ がんサポート
ハンドブック」
身近な地域の医療機関
相談窓口

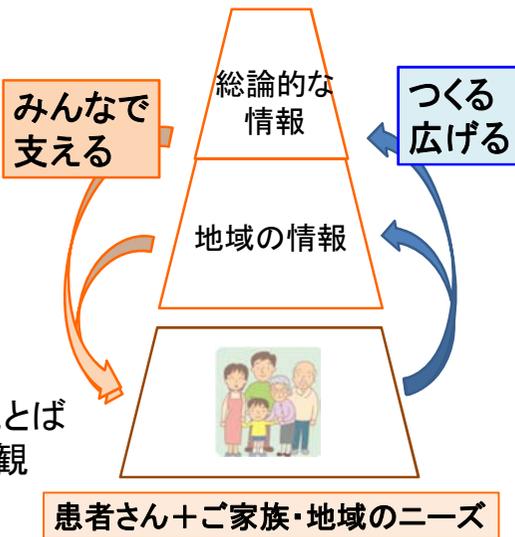
書籍・手帳 患者必携 がんになったら手にとるガイド
学研メディカル秀順社 2013年
インターネット「がん情報サービス」でも無料で閲覧可

がん患者さんとご家族を支える社会

医療・介護・療養を支える

地域の医療
緩和ケア
在宅医療
社会資源
患者会・ボランティア団体

歴史・風土・文化・教育・ことば
気候・風俗・家族観・死生観



患者さん+ご家族・地域のニーズ

がん患者さん・ご家族向け「地域の療養情報」の作成

34道府県で公開 のべ66冊作成・更新(2015年10月)



地元の相談員、ソーシャルワーカー、
看護師、医師、患者さんとご家族の
アイデアで作成・更新されました

在宅療養を支える情報

内容についてのご意見

- ・本人との**コミュニケーションの取り方**がわかる
- ・**家族のケア**のやり方、最期のときの様子がわかる
- ・気持ちが動転しているときに、**大変役立つ内容**
- ・**心の準備**ができる、気持ちの余裕を取り戻せる

届け方についてのご提案

- ・**手に取るタイミング**が非常に重要。自他ともに受けとめる時期が良いのでは
- ・病院、在宅医、訪問看護ステーション、薬局など、**目に触れる機会**を増やすことが大切

11

●がん患者さんとご家族を支える仕組みづくり

- ・患者、家族、体験者が、**積極的に参画**することが必要
- ・医療と介護の**連携**が重要
- ・地域で**気軽に相談**できる体制づくり
- ・安心して在宅ケアを選べるための**共通認識**

●地域の緩和ケア

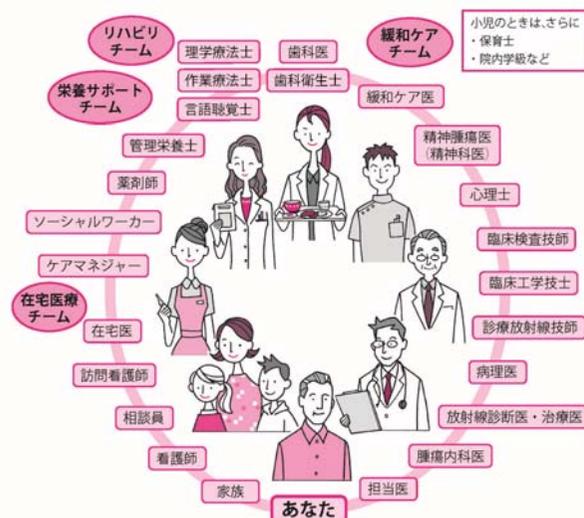
- ・緩和ケアに関する**正しい情報と理解**の普及
- ・**地域性を考慮**しながら支えることが大切

●患者を取りまくコミュニケーション

- ・**全人的な関わり**のなかで生きる支えになる情報伝達と自己決定の支援

15

顔の見える関係から 患者さん・ご家族とともに歩む地域づくりを

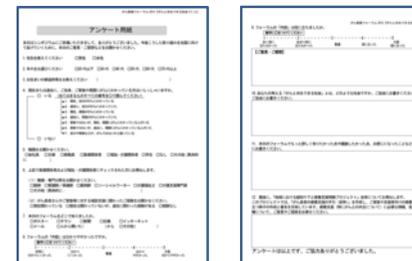


チーム医療のイメージ

患者必携
がんになったら手にとるガイド
(国立がん研究センター
がん対策情報センター)

アンケートへのご協力をお願い

- ・お答えいただいた結果は、よりよい緩和ケア・療養支援の取り組みを普及していくための資料にさせていただきます。



- ・フォーラム終了後、出口で回収させていただきます。